

2024 名古屋経済大学大学院

人間生活科学研究科

幼児保育学専攻 修士課程

栄養管理学専攻 修士課程

理論と実践を併せ持った保育学・教育学の研究を目指して

2007年4月に人間生活科学研究科修士課程(幼児保育学専攻)が開設されました。子どもを取り巻く環境は急激に変化し、待機児童の解消など、保育へのニーズが高まっています。小学校では、小1プロブレムが問題となり、保育所・幼稚園と小学校の接続が課題となっています。保育士の専門性を高めることや幼稚園教諭や小学校教諭の資質・能力を高めることが、社会的に要請されています。

幼児保育学専攻では、このような保育へのニーズや小学校における課題に応えるために、高度な専門職業人を育成することを目的としています。本専攻では、理論と実践を架橋する、子どもに関する研究を重視しています。教育学・保育学・心理学の科目を中心にして、社会福祉学系等の科目を配置したカリキュラムを編成し、現場の諸問題を把握し、解決できる研究や教育を目指します。

また、保育士、幼稚園教諭などの職業を持っている人を対象にして、「社会人入学制度」を実施しています。職業や育児等で標準的な教育課程の履修が困難な人を対象にして、「長期履修学生制度[※]」を採用しています。本専攻は、学ぶ意欲を持った人に広く開かれています。 ※詳細はホームページをご覧ください。

● 幼児保育学専攻[修士課程] 講義科目 (2023年度現在)

基礎科目	◆ 保育学研究	◆ 教育学研究
基本科目	◆ 保育内容方法研究 ◆ 表現文化研究 ◆ 教育課程・方法研究 ◆ 子ども福祉学研究 ◆ 教育心理学研究 ◆ 発達心理学研究 ◆ カウンセリング研究	◆ 発達・教育評価研究 ◆ 相談援助研究 ◆ 障害児研究 ◆ 生徒指導研究 ◆ 子ども精神医学研究 ◆ 教科教育法研究(国語) ◆ 教科教育法研究(算数)
実践科目	◆ 臨床事例研究	◆ 保育学フィールド研究
研究科目	◆ 幼児保育学特別研究	◆ 小学校実践研究

これまでの修了生が執筆した 修士論文のテーマ(抜粋)

- 発達につまづきのある子どもとその家族への援助に関する人間福祉学的考察
— 問題行動を示す子どもの事例研究をして —
- 絵本の「集団読み聞かせ」に関する教育心理学的考察
— 対話による相互作用の効果についての検討 —
- 自閉症幼児の就学への行動論的援助
— 発達臨床センター・幼稚園・家庭との連携によるアプローチ —
- 障害児保育システムに関する研究
— K市の障害児保育の実態と専門機関との連携に関する研究 —
- 不登校への行動論的アプローチ — 登校に向けた支援の研究 —
- 体育科学学習における「学び合い」の教育実践
— 共に成長する子どもの育成を目指して —

より賢く、より美しく、栄養のスキルアップを

食糧生産技術の進歩、食品流通機構の整備、加工食品および外食産業が振興している現代社会においては、人々の食生活も複雑化・多様化をみせており、当該専門分野が対象とする領域や範囲も、人間の食生活全般を総合的に取り扱うものへと広がりをみせています。

食事は単なる嗜好だけの問題ではなく、人間の健康を左右するものとしてますます重要視されています。食生活に起因する糖尿病や高血圧症などの生活習慣病は、国民の健康維持に与える影響が大きな社会問題となっており、医療分野における健康の保持や管理においても栄養学は重要な位置・役割を占めています。

また、現代の超少子高齢社会における、子どもの体力低下や高齢者のロコモティブシンドロームといった問題に対するサポートにおいても、当該専門分野に対する期待は高まっております。

これらの問題改善に向けて、健康増進法、食育基本法が制定されるなど、国をあげて栄養改善と食育が推進されております。また、学校教育における食育の担い手として、栄養教諭制度が創設されました。

さらに、産業界では栄養学の観点からの食品の加工・機能性食品の開発にも力が注がれております。

人間生活科学研究科栄養管理学専攻修士課程においては、このような栄養管理専門職に対する期待や役割の多様化や高度化を踏まえて、当該専門職者に求められる幅広く深い学識と豊かな人間性や社会性の涵養に加えて、専門分野に関する高度な知識と理論、技能の修得を目指しつつ、それを現場で活用することができる応用的な能力を有した人材を養成します。

● 栄養管理学専攻[修士課程] 講義科目 (2023年度現在)

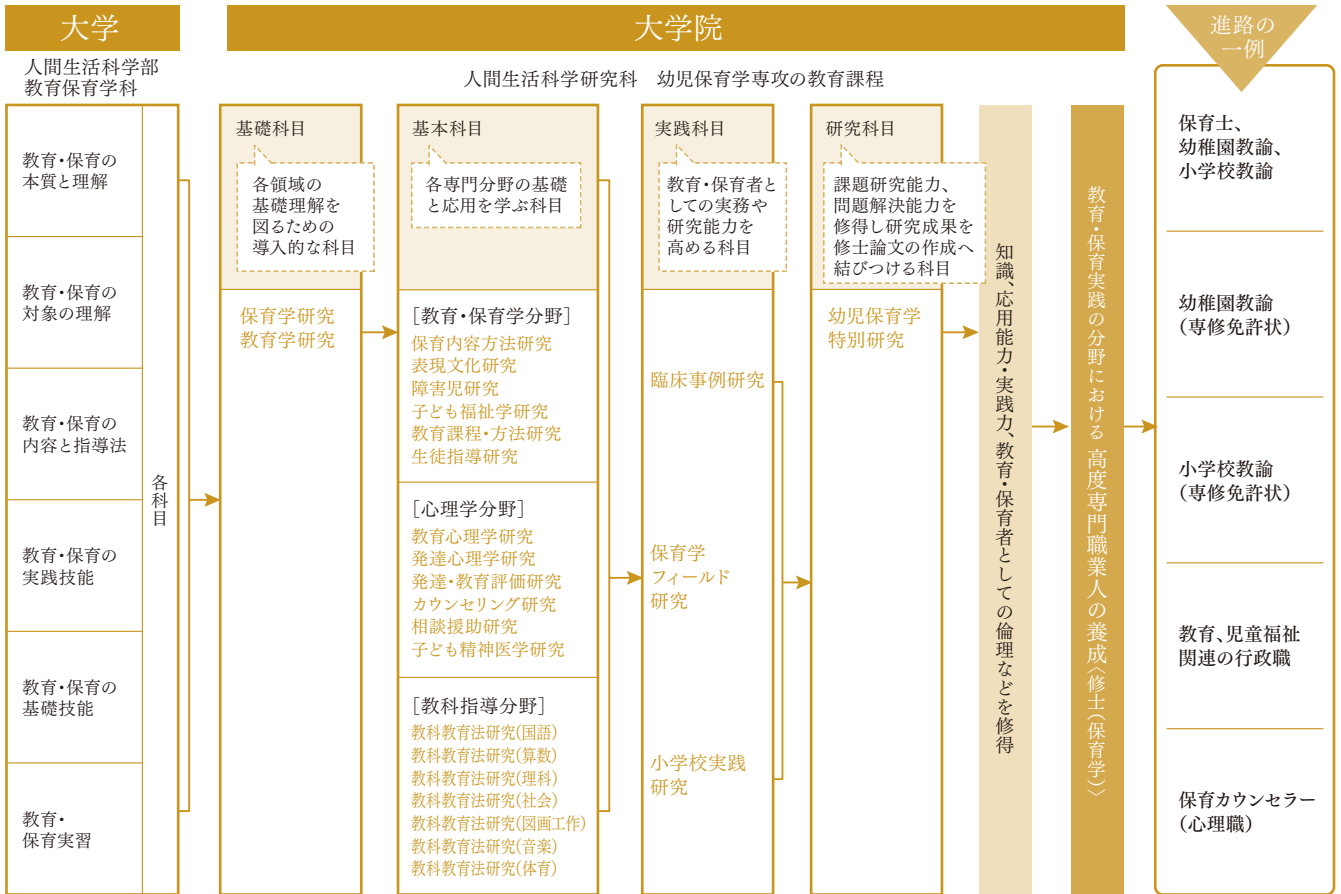
基礎科目	◆ 栄養管理研究
基本科目	◆ 公衆衛生学研究 ◆ 栄養生化学研究 ◆ 基礎医学研究 ◆ 臨床医学研究
実践科目	◆ 栄養管理実践研究
研究科目	◆ 栄養管理特別研究
教職に関する科目	◆ 食育実践特論

これまでの修了生が執筆した 修士論文のテーマ(抜粋)

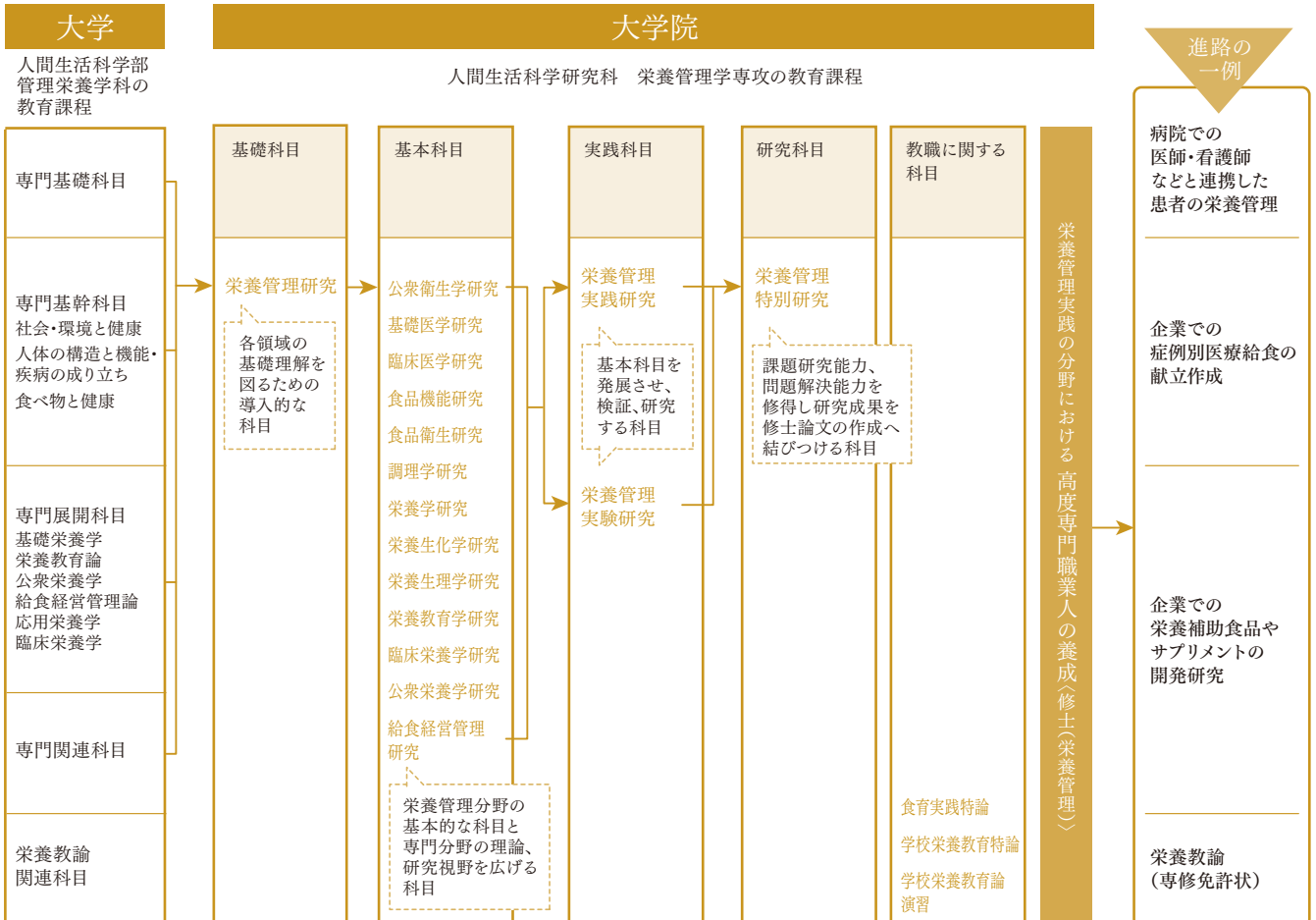
- 地域高齢者の食事環境に関する研究
- スポーツ選手に対する栄養教育に関する研究
- 食後の血糖上昇抑制を目的とした摂取方法の検討
- 保護者の意識とこどもの生活習慣・食習慣に関する研究
- 疾病改善に寄与する栄養管理法の検討

大学院と学部の関係図

● 幼児保育学専攻



● 栄養管理学専攻



担当専任教員(2023年度5月現在)

●幼児保育学専攻

教授 秋田 郁

〔経歴〕2001年武蔵野音楽大学大学院音楽研究科音楽教育専攻修了。2001年高田短期大学非常勤講師、2002年高田中等学校教諭、2014年高田短期大学子ども学科助教を経て、2015年本学人間生活科学部教育保育学科准教授、2015年本学大学院人間生活科学研究科准教授、2018年同教授、現在に至る。日本音楽教育学会・日本保育学会・日本サウンドスケープ協会。修士(音楽)。
〔研究テーマ〕●音楽教育●サウンドスケープ●ピアノ伴奏法

教授 家接 哲次*

〔経歴〕2010年名古屋市立大学大学院医学研究科修了。博士(医学)。本学短期大学部講師・准教授・教授を経て、2017年より本学大学院人間生活科学研究科教授。2008年University of Colorado, Department of Psychology (visiting scholar)。2013年 University of Oxford, Department of Psychiatry (academic visitor)。臨床心理士。公認心理師。
〔研究テーマ〕●メンタルヘルスに対するマインドフルネスの効果

特任教授 大谷 尚*

〔経歴〕1979年筑波大学大学院博士課程教育学研究科中退。長崎大学教育学部助手、同講師、名古屋大学教育学部助教、同大学院教育発達科学研究科教授、同特任教授を経て2022年4月から現職。
〔研究テーマ〕●テクノロジーの教育利用●医学教育●質的研究方法論

教授 関谷 みのぶ*

〔経歴〕2003年日本女子大学大学院人間生活学研究科生活環境学専攻博士課程満期退学。2003年本学短期大学部保育科講師・准教授、2017年本学人間生活科学部准教授を経て、2019年より本学人間生活科学部教授、本学大学院人間生活科学研究科教授。日本社会福祉学会員、社会政策学会員、日本家政学会員、日本保育者養成学会員、日本授業UD学会員。修士(家政学)。
〔研究テーマ〕●保育者・指導員の資質向上に関する研究

教授 多川 則子*

〔経歴〕2004年名古屋大学大学院教育発達科学研究科満期退学。2006年愛知文教女子短期大学講師、2008年本学短期大学部保育科准教授を経て、2017年本学人間生活科学部・大学院人間生活科学研究科教授。日本教育心理学会会員、日本発達心理学会会員、日本保育学会会員、日本保育者養成教育学会会員。博士(心理学)。
〔研究テーマ〕●保育者の洞察と応答性●子どもの育ちと愛着●育児不安●対人関係の親密化

教授 榎 誠*

〔経歴〕2004年筑波大学大学院博士課程心理学研究科単位取得退学。2007年本学人間生活科学研究科講師、2010年准教授、2016年教授、現在に至る。日本教育心理学会会員、日本発達心理学会会員、日本自閉症スペクトラム学会常任理事(東海支部)。修士(心理学)。
〔研究テーマ〕●発達障害児の療育に関する研究●嘘と真実に対する子どもの認識に関する研究

教授 塚本 敏浩

〔経歴〕1997年愛知教育大学大学院教育学研究科芸術教育専攻修了。1994年名古屋市立小学校教諭を始め、2006年愛知教育大学附属名古屋小学校教諭、尾張旭市立小学校教諭を経て、2018年本学人間生活科学部教育保育学科教授、2018年本学大学院人間生活科学研究科教授、現在に至る。美術科教育学会会員、日本美術教育学会会員、日本教科教育学会会員、日本美術学会会員。修士(教育学)。
〔研究テーマ〕●子どもの造形、図画工作、美術科教育●教材・指導法研究

准教授 飯田 幸恵

〔経歴〕2019年3月名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育学専攻博士課程後期課程単位取得満期退学。修士(教育学)。2009年4月より2014年3月まで稲沢市教育委員会事務局生涯学習課文化財グループ学芸員、2014年4月より2017年3月まで本学短期大学部保育科准教授、2017年4月より本学人間生活科学部教育保育学科准教授、2017年4月より本学大学院人間生活科学研究科幼児保育学専攻准教授。日本教育学会会員、日本保育学会会員、日本デュエィ学会会員、大学美術教育学会会員、愛知幼児教育研究会会員。
〔研究テーマ〕●子どもの美的経験に関する研究

准教授 田中 秀佳

〔経歴〕2013年名古屋大学教育発達科学研究科博士後期課程満期退学。2010年愛知教育大学非常勤講師、2013年帝京短期大学子ども教育学科専任講師などをを経て、2014年本学人間生活科学部准教授、現在に至る。所属学会は日本教育学会、日本教育法学会、日本教育経営学会等。修士(教育学)。2014年大学評価学会田中昌人賞受賞。
〔研究テーマ〕●国際人権法における無償教育原則の国内適用をめぐる教育財政の法制的、制度論的研究●戦後教育運動における教育財政の民主主義的・教育専門的統制に関する研究

准教授 早川 健太郎

〔経歴〕2018年3月愛知工業大学大学院経営情報科学研究科博士後期課程修了。博士(経営情報科学)。2014年4月より名古屋経営短期大学子ども学科講師、2018年4月より准教授。2023年4月より本学人間生活科学部・大学院人間生活科学研究科准教授。日本生理人類学会会員、日本教育医学学会理事、東海体育学会理事。
〔研究テーマ〕●幼児の体格・体力に関する研究

*幼児保育学特別研究担当者

●栄養管理学専攻

教授 荒川 和幸

〔経歴〕2002年岐阜大学医学部卒業、2010年名古屋市立大学大学院医学研究科単位取得退学。2016年博士(医学)名古屋市立大学病院等勤務。2022年本学人間生活科学部管理栄養学科教授。
〔資格〕総合内科専門医
〔研究テーマ〕●内科疾患と栄養

教授 太田 和徳*

〔経歴〕2009年岐阜大学大学院医学系研究科博士後期課程単位取得退学。同年岐阜大学医学部助教。2015年本学准教授。2022年同教授。北米神経科学学会員、Sigma Xi会員。博士(再生医学)。
〔研究テーマ〕●食品成分がもたらす神経機能改善効果

教授 岸上 明生*

〔経歴〕1991年大阪大学大学院理学研究科生理学専攻修了。理学博士。2007年金沢工業大学情報フロンティア学部生命情報学科准教授。2008年金沢工業大学バイオ・化学部応用バイオ学科准教授。2010年岐阜女子大学家政学部健康栄養学科教授。2021年本学人間生活科学部管理栄養学科・本学大学院人間科学研究科専攻教授。
〔研究テーマ〕●生物が環境の変化に反応・適応する生理機能の解析●感覚生理に関係する細胞内情報伝達分子機構の解析●睡眠や体温などの生理機能と食事の関係に関する研究

特任教授 黒川 淳一*

〔経歴〕1998年3月兵庫医科大学医学部卒業。2005年3月岐阜大学大学院医学系研究科社会医学系専攻修了。2014年4月本学客員教授。2015年4月本学人間生活科学部管理栄養学科特任教授。2019年4月医療法人桜桂会犬山病院副院長。
〔資格〕精神保健指定医、日本精神神経学会精神科専門医・指導医、日本産業衛生学会指導医・代議員、労働衛生コンサルタント、日本医師会認定産業医、日本内科学会認定内科医、日本心療内科学会登録医・評議員、日本スポーツ協会公認スポーツドクター、日本スポーツ心理学会公認上級指導士、日本温泉気候物理医学会温泉療養専門医など。博士(医学)。
〔研究テーマ〕●勤労者のメンタルヘルス●内田クレバリン精神作業検査●スポーツ選手のメンタリティ●精神科臨床

教授 前田 真勇*

〔経歴〕1998年名古屋大学医学部卒業。2008年名古屋大学大学院医学研究科博士課程満期退学。2009年博士(医学)。2009年名古屋大学医学部腫瘍生物学研究員、2015年同環境労働衛生学特任助教。2017年藤田医科大学医学部解剖学 II 客員准教授、2019年同生化学客員准教授、2020年同病理学講師。2023年本学人間生活科学部管理栄養学科教授。
〔資格〕日本内科学会認定内科医、日本内科学会総合内科専門医、日本医師会認定産業医
〔研究テーマ〕●脂肪細胞とがんに関する研究、食品成分とがんを含む内科疾患との関連

教授 山田 貴史*

〔経歴〕2006年静岡国立大学大学院生活健康科学研究科博士課程修了。2006年国立医薬品食品衛生研究所博士研究員、2008年国立長寿医療研究センター博士研究員、2012年中部大学応用生物学部助手、2014年中部大学応用生物学部講師を経て、2017年名古屋経済大学人間生活科学部管理栄養学科准教授に着任、現在に至る。日本栄養食糧学会会員、日本農芸化学会会員、日本痛風核酸代謝学会会員、国立長寿医療研究センター非常勤研究員。博士(食品栄養科学)。
〔研究テーマ〕●認知症予防に有効な機能性食品の探索●食品摂取による情動変化についての研究

准教授 太田 貴久

〔経歴〕2016年京都大学大学院薬学研究科博士後期課程修了。博士(薬科学)。2015年京都大学物質・細胞統合システム拠点(iCeMS)研究員、2018年愛知学泉大学家政学部管理栄養学科専任講師。2021年MSNWグループ保険薬剤師などをを経て、2023年名古屋経済大学人間生活科学部管理栄養学科准教授に着任、現在に至る。日本公衆衛生学会会員、日本栄養改善学会会員、日本薬学会会員、日本薬剤師会会員、スポーツファーマシスト。
〔研究テーマ〕●食生活と疾病との関連についての研究●医薬品と食品との相互作用についての研究

准教授 朱宮 哲明

〔経歴〕1983年名古屋栄養短期大学栄養士養成所卒業、2010年産業能率大学情報マネジメント学部現代マネジメント学科卒業。1983年愛知県厚生連昭和病院栄養士、2004年同昭和病院栄養科技師長、2008年同江南厚生病院栄養科技師長、同愛北看護専門学校非常勤講師、2021年同江南厚生病院栄養管理室室長。2023年本学人間生活科学部管理栄養学科准教授。日本病態栄養学会々員、日本給食経営管理学会々員。
〔研究テーマ〕●高齢者における健康寿命延伸のための栄養管理

准教授 庄司 吏香

〔経歴〕2018年名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科博士後期課程修了。1992年家田病院管理栄養士。2006年愛知学泉短期大学食物栄養学科助手。2016年岡崎市立看護専門学校非常勤講師。2017年名古屋学芸大学健康・栄養研究所客員研究員。2018年愛知学泉大学家政学部管理栄養士専攻講師。2021年より本学人間生活科学部管理栄養学科准教授。日本食生活学会会員、日本栄養改善学会会員、愛知県栄養士会会員。博士(栄養学)。
〔研究テーマ〕●高齢者および若年女性における排便習慣に関連する因子の検討●食物摂取頻度調査(FFQ)の妥当性

准教授 夏目 有紀枝

〔経歴〕2014年名古屋大学大学院医学系研究科健康スポーツ医学分野(医学博士課程)単位取得満期退学。2015年名古屋大学総合保健体育科学センター糖尿病運動機能代謝学寄附研究部門助教。2020年金城学院大学消費生活科学研究科客員研究員、本学人間生活科学部管理栄養学科非常勤講師。2021年本学人間生活科学部管理栄養学科准教授。日本体力医学会会員、日本栄養改善学会会員、日本サルコペニア・フレイル学会会員、日本肥満学会会員。修士(健康科学)。
〔研究テーマ〕●生活習慣病予防のための食事および運動習慣●高齢者における運動療法の効果

准教授 早川 麻理子

〔経歴〕2005年本学人間生活科学部准教授、2007年本学大学院人間生活科学研究科准教授、現在に至る。岐阜大学大学院医学研究科高度先進外科学非常勤講師。日本臨床栄養代謝学会学術評議員、日本臨床栄養協会理事、ヨーロッパ臨床栄養代謝学会(ESPEN)会員、日本アロマセラピー学会特任理事。
〔研究テーマ〕●食後の血糖上値抑制に関する研究●肥満治療のウエイトマネジメントに関する研究●栄養カウンセリング技法の研究●アロマセラピーに関する研究

准教授 山岡 由理子

〔経歴〕1999年～2007年岐阜県国際バイオ研究所等。2008年愛知江南短期大学生活科学科助手。2011年同短期大学助教。2013年岐阜女子大学大学院生活科学研究科生活科学専攻修士課程修了。2016年医療法人孝友会栄養課管理栄養士。2017年同法人栄養課課長。2023年本学人間生活科学部管理栄養士学科准教授。
〔研究テーマ〕●糖尿病患者の栄養教育●低栄養の栄養管理●介護施設管理栄養士の業務効率化

助教 梶浦 茜

〔経歴〕2006年金城学院大学生活環境学部食環境栄養学科卒業。2014年金城学院大学大学院人間生活科学研究科消費者科学専攻博士課程前期課程修了、2014年本学人間生活科学部管理栄養学科助手、2021年より本学人間生活科学部管理栄養学科・大学院人間生活科学研究科助教。日本栄養改善学会会員、日本給食経営管理学会会員。
〔研究テーマ〕●地域における管理栄養士の活動

*栄養管理特別研究担当者

人間生活科学研究科

複雑化、多様化の進む現代社会において高度で実践的な指導力や専門的な能力を備えたリーダーとしての役割を果たし得る人材の育成を目指します。

2007年4月に人間生活科学研究科修士課程(幼児保育学専攻・栄養管理学専攻)が開設されました。本研究科では、保育や教育の現場及び栄養管理の現場において活躍できる、高度専門職業人を養成します。高度専門職業人とは、高度で実践的な指導力や専門的な能力を備えた、地域のリーダーとしての指導的役割を果たしうる人材です。

幼児保育学専攻では、子どもの発達や学びの連続性を踏まえ、保育所・幼稚園、小学校の連携や接続を強化し改善することを目指しています。少子化の急激な進行など、家族の様態も変容しつつある中で、子どもを取り巻く環境は大きく変化し、保育や小学校の現場が直面する課題は多様化、複雑化しています。具体的には、子育て支援や幼稚園と保育所の機能の一体化など制度的な問題、小1プロブレム、LD(学習障害)やADHD(注意欠陥・多動性障害)などの発達障害児への対応といった、差し迫った多くの課題があります。これらの課題に取り組むために、乳幼児期から児童期を見通すことのできる、保育や教育の専門家を養成することを目的としています。

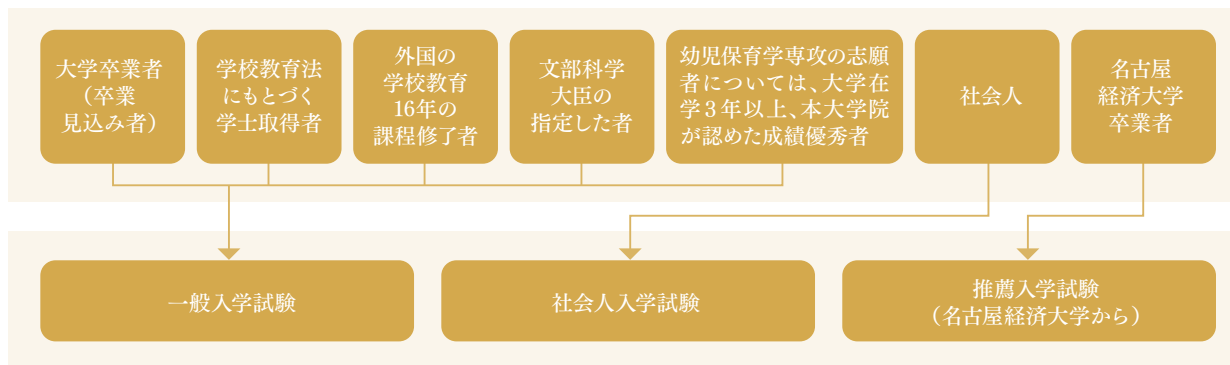
幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状取得者は、「幼稚園教諭専修免許状」・「小学校教諭専修免許状」の取得も可能です。

発達臨床センターでは、障害のある子どもとその保護者の相談・指導に応じています。絵本ライブラリーでは、子どものための絵本や紙芝居などを所蔵し、学内の学生や大学院生だけでなく、学外の方も利用できるようにしています。

栄養管理学専攻では、伝統的な食物栄養領域を中心とした研究に加え、より高度で実践的な指導力や専門的な能力を身につけていきます。現代の超少子高齢社会においては、栄養管理分野の社会的重要性がますます高まりをみせています。そのため、高度化・多様化する栄養管理分野における人材養成の質的向上および量的拡大が求められており、その社会的な需要が増大しています。理論的知識や能力を基盤として、実務に応用する力を修得するための教育を重視して、高度な専門知識を備えた人材育成をします。栄養教諭一種免許状取得者は、栄養教諭専修免許状の取得も可能です。

人間生活科学研究科においては、大学や短大を卒業した社会人や職業人にも、入学資格を広げています。リカレント教育に注目して、社会人の学習を支援する長期履修学生制度*なども整備しています。実務経験を持った社会人が、若い学生と一緒に授業を受け研究活動を展開していくことにより、保育や教育の分野で理論と実践を架橋することが可能となります。 ※詳細はホームページをご覧ください。

入学試験から修士号取得まで



人間生活科学研究科 幼児保育学専攻 修士(保育学) 栄養管理学専攻 修士(栄養管理)

本研究科における3つのキーワード

より高度な専門的職業人・指導的人材の養成

理論的知識や能力を基礎として、実践的・探究的な能力を身につけ、各専門分野で活躍でき、中核的・指導的な役割を果たす専門的職業人の養成を目的としています。

臨床実践

現場で起こりうる諸問題を実際に経験しながら、実践的な検証を通して、理論と実践の融合を図り、自らの資質向上、課題研究へのフィードバックを図り、実務能力と臨床的な研究能力を高めます。

地域と大学院の連携

学内に設置された既設の「発達臨床センター」「臨床栄養センター」を活用し、地域の人々の相談を受け、指導を行える体制を充実させ、講演活動などを通して、地域福祉の支援に役立っています。

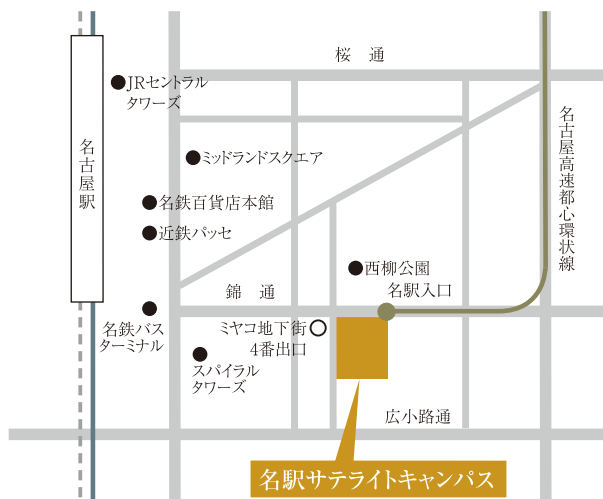
課題
解決力

+

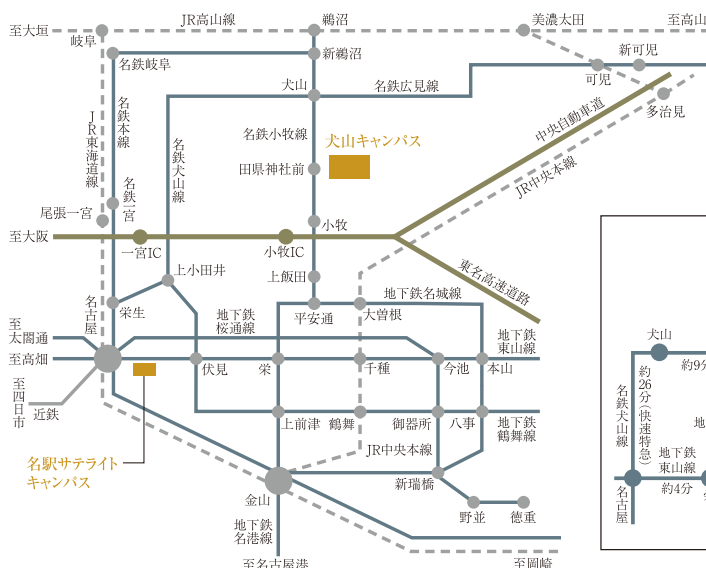
実践的な
指導力

大学や社会で学んだ基礎的な知識と能力を基本に、さらに専門性に重点を置いた教育課程を編成、複数の指導教員による研究指導体制を導入し、研究指導に力点を置いています。同時に、理論と実践の融合を意識し、実践面での指導的な力量の強化も図っていきます。

交通アクセス

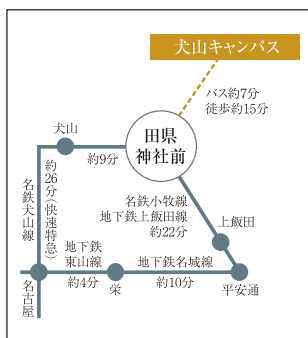


- 名駅サテライトキャンパス
名古屋駅より徒歩約7分
(ミヤコ地下街4番出口スグ)



- 犬山キャンパス
栄駅より約37分・名古屋駅より約40分

- 田県神社前駅へは……名古屋から名鉄犬山経由で約35分(快速特急)
栄からは地下鉄平安通経由で約32分
- 田県神社前駅より本学へは…徒歩約15分、スクールバス約7分



学校法人 市邨学園

名古屋経済大学

[名駅サテライトキャンパス] 法学研究科・会計学研究科
〒450-0002 愛知県名古屋市市中村区名駅4-25-13 TEL 052-569-2882(代)

[犬山キャンパス] 人間生活科学研究科
〒484-8504 愛知県犬山市内久保61-1 TEL 0568-67-0511(代)

広報センター
TEL 0568-67-0624
E-mail koho@nagoya-ku.ac.jp

